

世界歴史都市会議参加報告

オーストラリア・バララット市他 2006/10/29～11/3 京都市会議員 山本正志

10月29日

10月28日夕方、京都駅集合。関西空港離陸は夜の9時過ぎ。ブリスベン経由でメルボルン着。バスで平原を走って夕方バララットのホテルに。すぐ近くの市庁舎で歓迎セレモニー。両市長挨拶の後、贈り物の交換。京都市からは西陣織ネクタイと血圧測定器。

バスでソヴリン・ヒルに移動。すでに各都市からの代表たちが集まっていて通りでカクテルパーティー。レストランに入って歓迎パーティー。ディナーはスペアリブに白ワイン。8時半、すっかり暗くなったところで野外ステージのスペクタクル・ショーが始まる。光と音の効果でナレーションが続くが、ゴールドラッシュでにぎわう当時のバララット住民の苦難の歴史が展開される（よくわからないが、どうもそうらしい）しかし野外なので相当に冷える。

バララット市（市長 デヴィット・ヴェンディ氏）

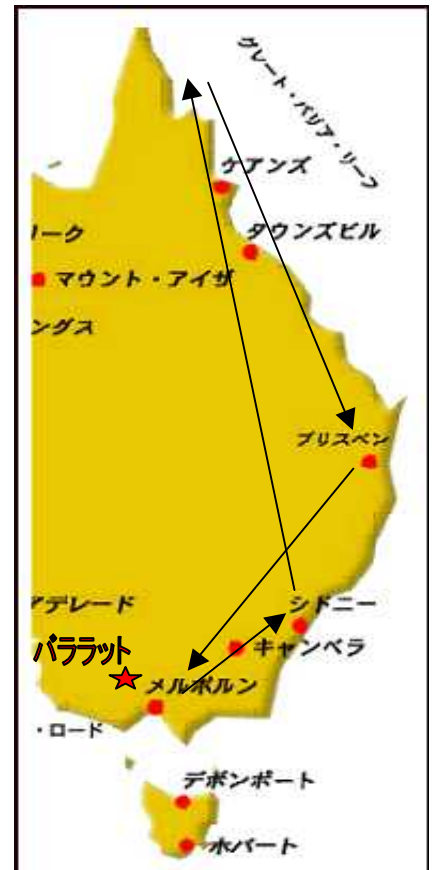
メルボルンの北西約112キロに位置する。共同遊牧場がまちの起源で、1850年頃ゴールドラッシュで繁栄し、一獲千金を夢見る金鉱夫で人口4万人に膨れあがった歴史を持つが、1918年には最後の金鉱も閉鎖された。

市庁舎をはじめビクトリア様式の建築物が多く保存されており、それらの歴史的建築物などによって、オーストラリア国内を中心に数多くの観光客が訪れている。1850年代当時の町並みを再現した歴史博物館（テーマパーク）の「ソヴリン・ヒル」は、金鉱の町として発展したバララット市の歴史を再現している。

また、バララットは、1854年に金鉱夫たちが英国政府の採掘税や採掘権の不合理に対して起こした、オーストラリア史最大の民衆による武装蜂起といわれる「ユーレカ砦の坂乱」の舞台としても有名であり、街の東部に記念碑と公園となって残されている。人口：88000人。地名はアボリジナルに由来し、「キャンプをする、あるいは休息する場所」の意味。

ソヴリン・ヒル

元々、金の採掘所があった場所に建てられた、1850年代の金鉱地の様子を再現した野外歴史パーク。バララットの歴史を紹介するとともに、当時の採掘場はもちろん、住居や店舗など、当時の生活状態を含めて忠実に再現している。また、夜には、ユーレカ砦の反乱の様子を音と光で再現した「ブラッド・オン・ザ・サザン・クロス」というショーが行われる。



ソヴリン・ヒル



デヴィット・ヴェンディ市長



タウンホール（市役所）

デヴィット・ヴェンディ・バララット市長メッセージ

世界歴史都市連盟の理事都市を代表して、ここ、オーストラリア・ビクトリア州のバララット市において2006年10月29日から11月1日までの間に開催する第10回世界歴史都市会議に皆様を御招待できることを大変光栄に存じます。

バララット市は、メインテーマとして「持続可能な歴史都市～未来に向けた経済・保存・ビジョン～」を掲げ、本会議を主催致します。この会議は、各都市がいかにして固有の歴史や文化的遺産を保存しつつ、現代的で、住みやすいまちづくりに対するニーズと調和させるかということについて、会員都市や参加者の皆様に対し、議論する機会を提供するものです。

1850年代の有名なゴールドラッシュとユーレカ砦の反乱のあった場所であるバララットは、オーストラリアの民主主義発祥の地として広く知られています。また、歴史と文化的遺産に富んだまちであるバララットは、荘厳な建築物や素晴らしい工芸品、そして世界的な観光地として名声を得ています。

この会議が、世界の主要な歴史都市の文化の多様性、友好関係や知的交流の推進という重要な目的のために貢献できるものと存じます。

30日

今日からの会議の会場はタベのソヴリン・ヒルの東隣のビジネスセンターでロッジ型式のモテルもある。国内からの代表やスタッフも利用しているようだ。今日はメイン会場のコンベンションセンターでワークショップが開かれる。会議場では通訳ブースなどの準備に追われていたが、我々一同はバララット市内の歴史的建造物の視察ということでフィールドワーク。ところが お話は専門家の女性が英語の早口で 最初は村田さんが「およそこんな話」と説明してくれていたが、とても追いつかなくてあとはわけがわからず ???コロニアル・クラブで休息のお茶。

お昼は会場に帰って昼食ということになったが、簡単なサンドウィッチ類だけ、そこで一人で外出。たしか近くにチャイニーズレストランがあったはず。すぐ見つかったので焼きそばとヴィクトリアビール（小瓶）でおいしい昼食。

午後からも市内ツアー。現地の案内のお嬢さんに「インターネットができるのはどこか」とたずねると「図書館でできます」とのこと。ツアー終了後ホテルの近くだったので歩いて図書館へ。さすがに少数民族の言語も保障しているこの国だ。日本語のホーム



丘にたつて市内を一望



ページも読める。さっそく京都のニュースにアクセス。今日は京都市職員の逮捕者は出てなくて安心。図書館の後ハブラシを忘れたのでスーパーで買い物。しかし5時近くなっていたのでお知らせは「間もなく閉店」。あちこちのテナントはガラガラとシャッターを閉めはじめています。「これで仕事はおしまい。後は我々のプライベートタイム」ということだろうか。

夕方ホテルに参加者全員が集合。簡単なカクテルパーティー。あちこちで名刺交換や懇談。韓国の安東市代表、中国の西安市の代表とあいさつを交わす。

外には古式ゆかしい衛兵が我々を歓迎。やがて夕食会場へむけての出発ということで3人の古式銃が号砲一発。元の金鉾の工場か倉庫だったようなレンガ造りの広い会場で歓迎パーティー。オープニングは現地の太鼓チームの勇ましい演奏に続いて歓迎スピーチ。その後には様々な民族舞踊が披露される。

ところでこの国の交差点にはあまり信号がない。というのも十字路の中心がロータリーになっている。どうも信号待ちをするよりもこの方正式の方がムダな燃料消費が少なくてすむということらしい。車のあまり多くない町であれば有効なやり方であろうと思った。

メインロードにはこの国でも不動産屋が目立つ。お値段は「効外土地付一戸建20万ドル」程度。約2000万円で広い庭付の家が買える。もっともこの町ではほとんどの家が庭付平家で中心部をめけると二階建ては見なかった。



31日

今日は開会のセレモニーに続いていよいよ本格的な参加者による会議が始まる。

開会にあたっての歓迎の意味をこめて原住民アポリジニのダンス。長老が紹介される。

まずはバララット市長による歓迎挨拶と世界歴史都市連盟会長の榎本市長挨拶、ロブ・ハウス・ヴィクトリア州計画担当大臣の挨拶。午前中の会議第一部ではバララット市と京都市の報告で、榎本市長は京都市が計画しているダウンゾーニングの

報告。参加者からは活発な質問が。「遺産保護の税制面での措置はどうするのか」「ナショナルトラストはどうか」「環境保護と既得権者の権利との対立はどうするのか」などに議論が集中。地元の大学院生からは「遺産保護というのが最近の優れた近代建造物の評価と都市計画はどうすればいいのか」といったそれぞれの分野からの意見も投げかけられる。どうやら一般市民のこの分野での専門家も参加しているらしい。

昼食は簡単なサンドウィッチとなったが今日は京都市会代表団は昨日行った中華レストランへ直行。おいしい中華とビールで乾杯。隣には中国の代表団一行も。会場でコーヒープレイクの時、お嬢さんが「京都か」と話かけてきたのできくとラトヴィアのリガから

きたという。「6月にリガ・タリンへ行ってきた」というと喜んでいて。リガ市の都市計画の担当のイベタさんということであった。

参加名簿によるとバグダッドがあったが「事情で来れなくなった」とのこと。参加していたらさぞ話題の中心になったであろうと思うが残念。

夕食はバララット市長の招宴が美術館で行われた。両市長挨拶のあとは歓談。現地著名ピアニストのヘルフゴッド氏の演奏はとても愉快で、障害者ということだが一曲ごとに舞台から最前列の人たちに盛んに握手をもとめてはピアノ演奏にもどった。ショパン・リスト・ベートーベンの曲だと聞いた。



1日

いよいよ今日で会議最終日、午前中の討論で歴史都市会議は議事終了。午後は世界歴史都市連盟総会。昼食はお隣のレストラン。ところが入ってみると、トマトケチャップの魚とかパサパサのライス。閉口して私だけ再びチャイニーズレストランへ。ボーイ君とはもはや顔なじみ。シーフードニードル（焼きうどんのような焼きソバ）トマトが入っていたのにはビックリ。注意深くすべて除いていただいた。



会場へ帰ってみると庭園のユーカリの木にコアラが。どうやら歓迎のために「移動動物園」を呼び寄せたらしい。とてもかわいい。

第10回世界歴史都市会議バララット宣言

ここバララットで開催された第10回世界歴史都市会議に一堂に会した我々歴史都市の市長並びに代表者は、以下のとおり宣言する。

歴史都市、それは、人類の能力と叡智の証であり、我々は日々、歴史文化遺産の恩恵を享受しながら生きている。と同時に、我々は、これらの貴重な財産を保護、保存する義務がある。なぜならば、次世代の人々もまた、歴史都市の独自性を尊び、その貴重な資源を永遠に伝えていくという重要な責務を継承していく必要があるからである。

歴史都市連盟の会員都市は、地理的及び文化的背景、都市の発展段階等において、実に多様である。しかし、世界平和という究極の目的を達成するために、歴史都市が、文化の向上、友好親善、自由で知的な都市間交流の促進に率先して取り組むことを世界に示す必要があるという信念の下、深い絆で結ばれている。

世界歴史都市会議は、文化の多様性が必ずしも摩擦を生むものではないということを立て証する。

文化の多様性は、世界を豊かにすると共に、世界の価値を高めるものである。文化の多様性を尊重するという一致した目的が存在するならば、1都市では成し得ることができない賞賛すべき目的を達成できるであろう。

礎の一部として歴史遺産を保有する現代都市は、独自の文化を形成してきた過去の建造物や史跡・伝統を尊重し、調和させながら、都市の将来に不可欠な観光産業や経済発展を推進していく使命がある。

歴史都市は生きている都市である。21世紀における都市の発展に利益をもたらす技術的革新を取り入れながらも、歴史都市の本質を欠くことなく、絶えず変化し続ける市民のニーズにこたえなければならない。

これを遂行するための手段として、歴史都市という絆で結ばれた世界歴史都市連盟の会員都市が、経験を分かち合い、互いに学び、そこから得た知識を各々の都市の将来設計に盛り込むのである。

世界歴史都市連盟の会員都市は、世界における歴史的な市街地と自然環境を保有する特別な存在として、人類に感銘を与える立場にあることを理解し、歴史都市の保存と開発に尽力すること、また歴史都市が未来永劫に持続するために、世界の調和を乱す脅威に対する平和的な解決が必要であることを再認識する。

バララット,2006年11月1日

総会では4都市の新規加盟が承認された。

扶餘郡（大韓民国）

成都市（中華人民共和国）

フエ市（ベトナム社会主義共和国）

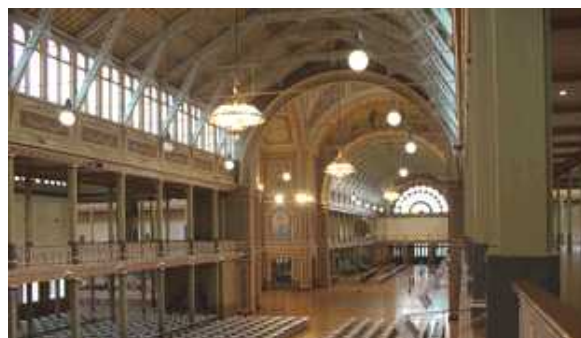
ニコシア市（キプロス共和国）

次回2008年開催都市はトルコのコニヤ市に決まった。

コニヤ(Konya)は、トルコの内陸アナトリア地方の主要都市のひとつ。1997年の人口は約61万人。

2日

バララットからバスでメルボルンへ移動し、メルボルン市庁舎へ向かう。最初に立ち寄ったのは王立展示館（世界遺産）はオーストラリア最初のヨーロッパ建築と言われる。1880年に完成し、同年のメルボルン博覧会の展示会場となった。1901年5月9日には国会議事堂となった。広い会場ではメルボルン大学の試験会場として机が並べられていた。



王立展示館

現地に30年お住まいの井上さんは京都七条の出身、カンタス航空の大阪支居長もおつとめになった方だが、お話をきくと、今日の雨は2ヵ月ぶりりとのこと。水不足は相当のもので、牧草がダメになり羊が飼えない。そこで一日も早く食肉にということで、市場価格はほとんど0に近いという。又、乾燥のため山火事がおきると消火の水がなくて消せないという。車を洗ったり庭の芝生に水をやるなどもっての外とも言われた。魚つりに免許が必要で年30ドル。しかも釣った魚が15センチ以下であればもどさなければならない。

市庁舎で昼食のあと、中心街の商店街を歩きながら「こちらでは夕方5時に店は閉まる

んですか？」と井上さんにたずねると「そうです。土曜日は12時で閉店です。営業はできるんですが超過勤務手当が負担となるので自家営業の店以外は大半閉めます」とのこと。

夕食はメルボルン総領事の加来至誠氏の招待で公邸へ。

公邸での夕食会でお会いした名和野恒彦さん（工科大学）やジェンセン裕子さんも「平日の残業は150%、休日の出勤であれば200%、祭日ともなると300%の給与となるので閉店したほうが損をしない」ということらしい。早く日本もこの程度の労働環境になればと思いながら聞いていた。

総領事の加来至誠氏は1997年京都議定書をまとめた際の会議の事務総長を勤められた方であり、京都に対する思い入れはとりわけ強いものがあったようだ。

名和野氏はよく聞いてみると京都出身で珍しい苗字なので「兄弟が京大生協にいたか」とおたずねすると「知っているんですか」と驚いておられた。じつは1960年代から70年代にかけて京大も学園紛争に巻き込まれ、私も当事者として慌ただしい日々をすごしていたが、名和野さんは京大生協労働組合で奮闘されており、奥さんも生協で働いておられ、その後保育現場で妻ともなじみになった方で、私もお夫妻を学生時代からよく知っていたのでその話を紹介すると大変喜んでいただいた。総領事公邸での日本料理のおもてなしはとてもおいしく参加者一同大喜びであった。（日本酒も格別）

総領事公邸で



3日

今日はメルボルン市長を表敬訪問。ジョン・ソー市長は香港出身で15才の時に渡航し、努力の末今では30数店の経営者であるという。来年2月のイクレイ総会に京都に来られるとのことで、再会を約束して、贈り物の交換。昼食までの小一時間、自由時間となったので再び州立図書館へ。インターネット端末も50台はあった。もちろん無料。お昼は中華街で食事。これで今回の公式行事は終了。



ホテル36階から市内一望



町はクリスマスの準備



州立図書館

午後はメルボルンからシドニーへ移動。シドニー市内ではまず有名なオペラハウスへ。向かい側の大きな橋をよく見ると、半円形の橋げたの頂上を蟻の行列のように人が歩いているのではないか。橋の頂上まで130mということだそうだが、この高さで風圧もきつuitと思われるが、「命綱がありますから」という説明だった。(入場料は14000円だそう)

免税店にたちよって皆さんは買い物。その後レストランへ。今夜はロブスターの刺身と味噌汁。おいしかった。



オペラハウス



橋の上を観光客が！

今回の京都代表团 梶本頼兼市長 高木寿一連盟事務総長
 市会副議長・鈴木マサホ 市会議員・北川あきら 繁 隆夫 山本正志 久保省二
 宇都宮壮一
 市職員・石田 達 柴田 義 砂川 敬 高谷基彦 安井 隆 村田悦子
 西松 卓 小堀摩弥子

世界歴史都市連盟加盟都市一覧 (下線が会費納入都市 印が今回参加都市)

<p>アクラ アレクサンドリア アルジェ <u>アムステルダム</u> 安東 アテネ バクダッド <u>バララット</u> <u>バルセロナ</u> ボルドー ボストン ブラチスラバ ブリュッセル <u>ブダペスト</u> <u>チェンマイ</u> <u>ケルン</u> <u>コルドバ</u> <u>クラクフ</u> <u>クスコ</u> ディジョン ダブリン エジンバラ フェズ フィレンツェ <u>ジュネーブ</u></p>	<p>グアダラハラ <u>慶州</u> ハーグ ハノイ <u>ヘルシンボリ</u> <u>ヤシ</u> <u>イスファハン</u> イスタンブール エルサレム 開城 <u>カトマンズ</u> カザン キエフ <u>コンヤ</u> <u>京都</u> ラホール <u>リスボン</u> メルボルン メキシコシティー <u>モンペリエ</u> <u>モントリオール</u> <u>南京</u> <u>奈良</u> <u>パリ</u> ブラハ</p>	<p><u>ケベック</u> リオデジャネイロ ローマ <u>サンティアゴ・デ・コンポステラ</u> タシケント <u>チュニス</u> ウランバートル ベナレス <u>ウィーン</u> <u>西安</u> ヤンゴン ジョクジャカルタ ザグレブ <u>鄭州</u> <u>チューリヒ</u> <u>今回新規加盟都市</u> 扶餘郡(大韓民国) 成都市(中華人民共和国) フエ市(ベトナム社会主義共和国) ニコシア市(キプロス共和国) <u>今回退会都市</u> リオデジャネイロ その他参加都市 リガ</p>
---	--	--